

「カツラの森、命あふれる川の復元事業」

2011年度の活動報告

エゾシカと森づくり
～運動地でもシカの捕獲が始まりました～



岩尾別川沿いの森で防鹿柵づくりに
励むタイキン工業社員ボランティアの
皆さんと森の番人。

しれとこ100平方メートル運動は、今年35年目の節目を迎えました。開拓跡地の取得に始まり、この土地での森づくり作業などこれまで歩みは、運動参加者の皆さまのご支援の賜です。

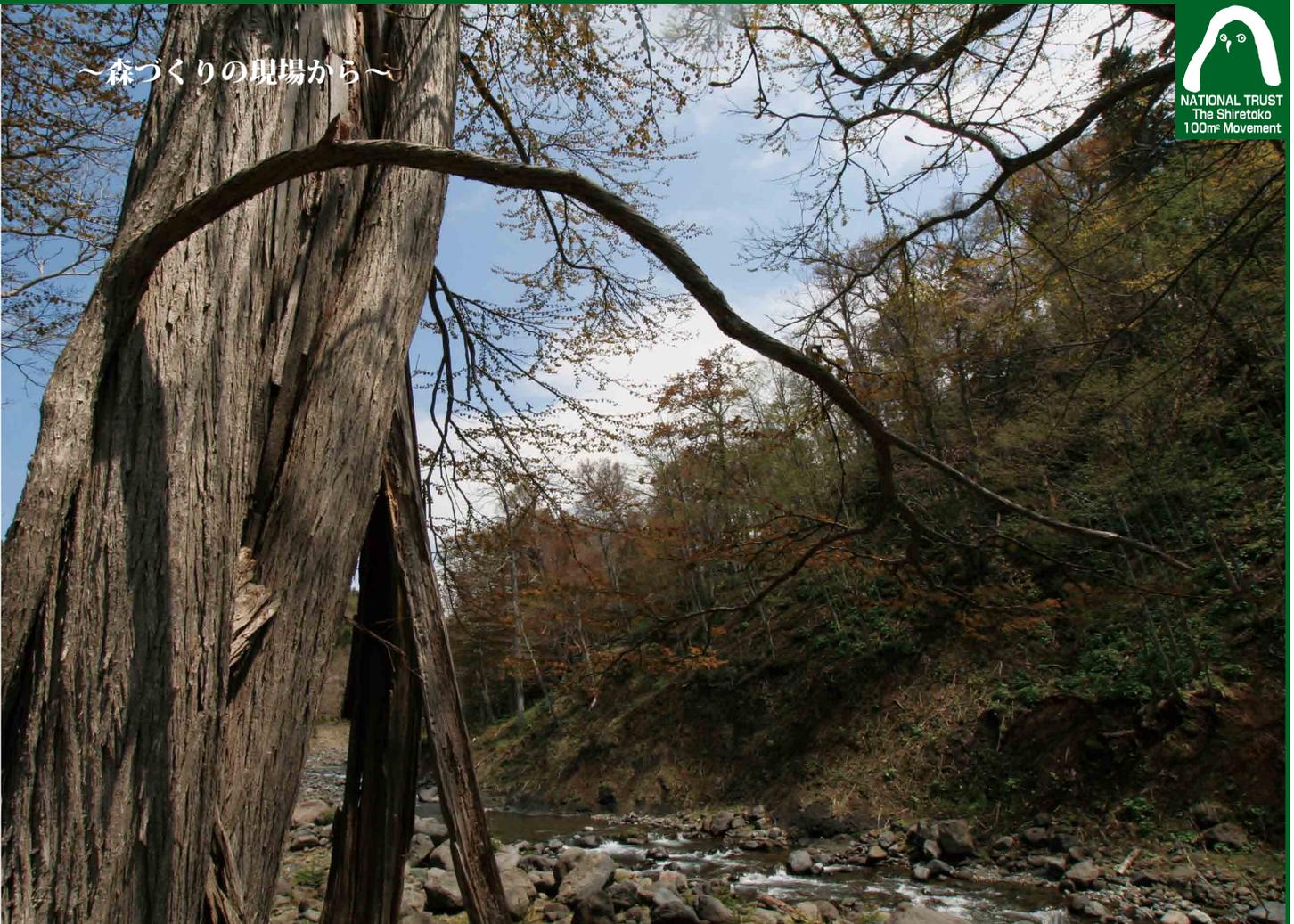
斜里町は、これからも知床の森づくりを通して数百年後の大きな夢の実現に取り組んでいく覚悟です。

引き続き、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

斜里町長 馬場 隆



～森づくりの現場から～



岩尾別川沿いに立つカツラの大木。この取り組みでは、豊かな河畔林の象徴としてカツラを掲げ、森と川の復元を進めていく。

「カツラの森、命あふれる川の復元事業」

100平方メートル運動地の中央を流れる岩尾別川。ここにかつてあった自然を復元する取り組みが、新たな一步を踏み出しました。



一見すると自然な流れだが、実は多くの人の手が入っている。写真左の河原は洪水対策で石が盛られている。

岩尾別川の河畔林のいま

岩尾別川は、知床連山の羅臼岳を源とする長さ約10キロメートルの渓流です。運動地の中央を流れるこの川の流域には、かつてカツラを中心とする豊かな河畔林が形成されてきました。しかし、その河畔林の木々は、開拓時代に切り出されたり、1981年（昭和56年）の大洪水などで多くが失われました。また、防災のための人為的な河川整備や増加したエゾシカが木々を食べる圧力もあり、河畔林はしだいに衰退し、川の流れや周りの環境も大きく変化してしまいました。

河畔林は、多くの生き物たちの暮らしを支えています。木陰が川面を覆うことで水温が低く保たれ、低温を好むオシロココマなどの魚が生息できるようになります。張り出した枝から水面に落ちる昆虫は魚のエサとなり、倒木は生き物たちの恰好の隠れ家です。こうして育まれた魚は、多くの野生動物にとって大事な命の糧にもなっています。河畔林の復元は、このような生き物の暮らしの復元そのものなのです。

100平方メートル運動ではこれまで、川沿いに防鹿柵ぼうろくさくを作り、その中で木々の育成を行うなど河畔林の復元を進めてきています。しかし、人手や予算が限られる中、広大な運動地の特定場所だけに集中して作業を行うことは難しい状況でした。



1. 岩尾別川の現状。増加したシカの影響で自然のままでは河畔林が回復しない状況となっている。
2. 昨年度完成した防鹿柵。
3. カツラの幼樹。カツラは、沢沿いや湿地に生える落葉広葉樹。円形やハート形の葉が特徴。

岩尾別川復元の新たな一歩

「カツラの森、命あふれる川の復元事業」は、ダイキン工業株式会社（本社大阪）にご支援いただき、これまで以上に岩尾別川の河畔林や河川環境の復元を進めていく取り組みです。昨年度から2015年までの5カ年計画で、数基の防鹿柵を設置し、かつて河畔を覆っていたカツラなどの木々を育て、森そのものの復元を行います。また、人為的に単純化された川の構造を自然な流れに復元し、多くの生き物が暮らす本来の岩尾別川の姿を取り戻すことも目指しています。

まずは河畔林を守る柵を設置

昨年度は、シカから木々を守るために、残された河畔林の一部を防鹿柵で囲いました。面積は03ヘクタール（テニスコートおよそ12面分）、柵の総延長は234メートルです。石の多い川沿いでは、穴を掘って柱の基礎を埋め立てる通常の工法が使えないため、3本の支柱を三角形に組んで自立させる方法で設置を行いました。この作業は、ダイキン工業の社員の方々ははじめ多くの皆さんにお手伝いをしていただきました。

カツラの分布調査

復元を行うにあたって、まず必要なのは、現状の把握です。昨年は岩尾別川流

域でのカツラの分布調査を行いました。河口から岩尾別温泉までの約4キロを調査区間とし、周辺のカツラの位置の記録を行いました。調査の結果、同区間の川沿いには、163本のカツラがあることを確認しました。ただ、そのほとんどは、大きく太い木ばかりで、これからの世代を担う若木や幼樹はほとんど見かけるところはできませんでした。シカには食べられにくい大きなカツラは残っているものの、若い木は育っていないという現状が浮かんできました。

川の中の自然の復元も

川の中に大きな石を配置することで、瀬や淵をつくり、オシヨロコマやヤマメなどの魚のすみかや、サケやマスの産卵環境の改善を図ることも計画しています。昨年度は、具体的にどのような改善したら良いのか、手法の検討と作業を行う場所の選定を行いました。また、これらと並行して、川と周辺の環境を把握するために、魚や鳥、植物などについての調査も進めています。得られた情報は、今後、環境の復元状況を知る上で重要な目安となっていきます。

この取り組みは、まだ始まったばかりですが、かつての岩尾別川の豊かな河畔林と川の流れ、そして生き物の営みの復元を目指して日々の作業を進めていきます。

ダイキン工業知床ボランティア

2011年10月中旬、3泊4日の日程で社員12名の皆さんがボランティアで知床を訪れ、防鹿柵の設置作業に汗を流しました。実際の作業に関わっていただくことで、より知床の自然と森づくりを身近に感じていただけたのではないかと思います。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

■ダイキン工業からの支援について

斜里町(100平方メートル運動)並びに羅臼町、知床財団は、環境貢献活動に取り組んでいるダイキン工業から知床の自然環境を保全するための支援を受けています。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

ダイキン工業「知床の自然環境保全」

<http://www.daikin.co.jp/csr/shiretoko/index.html>



【社員ボランティアさんの声】

シカから森を守るための柵づくりを経験し、知床の自然の偉大さと生態系の複雑さを改めて実感しました。自然や生態系の復元という壮大な活動のために、北海道の自然の中で生き生きと、また力強く働くスタッフの方々の姿に本当に感銘を受けました。(G・Aさん 20代 女性)

2011年度の活動報告

森づくりの様子をご報告します

2011年度の森づくりは、岩尾別台地の東側に位置する第4区画を中心に作業を進めました。

苗畑での除草や苗木の根づくりを行い、春と秋には育てたミズナラなどの苗木約220本を防鹿柵の中に植えました。また、新たな取り組みとしてアカエゾマツの苗木の育成を開始するなど、知床の森づくりは、1年を通じて様々な取り組みを展開しました。

この冬の知床は、記録的な大雪にみまわれました。そのため、2か所の防鹿柵内にシカが侵入し、一部の苗木が食べられてしまうという事態が発生しました。防鹿柵は、積雪量を考慮して設計し、設置後も毎年の雪の状況を確認しながら、必要に応じて、柵を高くしてきましたが、想定を超える自然の力によって今回の事態に至ってしまいました。

本格的な森づくりを開始して15年、これまでも失敗を通じて自然から学び、次へと活かすことを繰り返してきています。これらの経験を糧として、今後も、自然に対して謙虚な姿勢を忘れることなく、数百年先の未来の森を目指し、森づくりに取り組んでまいります。



5つの区画を5年で一巡する回帰作業は、現在3巡目を迎えています。



森づくり作業

アカエゾマツの種撒き(11月)。防鹿柵のない場所にも植樹するために、シカに食べられにくいアカエゾマツの苗木の育成を始めました。



しれとこの森交流事業

「第32回知床自然教室」には、全国から33名の子どもたちが集まり、知床の森で1週間を過ごしました。10月には「第15回しれとこ森の集い」(参加者120名)、11月には「第15回森づくりワークキャンプ」(参加者15名)を開催しました。



知床森づくりの日

4月5日の森づくり合宿「知床森づくりの日」を春から秋に計3回開催し(参加者のべ25名)、苗畑の除草や防鹿柵の修繕作業などを行いました。



シカの侵入状況

雪の吹き溜まりを考慮して高さ3.7メートルまで柵の「かさ上げ」を行っていましたが、今回の大雪ではその高さまで雪が積み、シカが侵入してしまいました。侵入後、さらに柵を高くしたことで、その後のシカの侵入を防ぐことができました。



森林再生専門委員会議

動植物の研究者や地元の有識者で構成される専門委員会では、昨年も、運動地の視察を行い、これまでの作業結果を確認するとともに、今後の作業方針について議論しました。



斜里高校自然体験学習

6月、斜里高校の1年生88名が運動地を訪れ、防鹿柵内の下刈りを体験しました。それぞれが鎌を片手に、小さな木々のまわりを覆っているササやハンゴンソウなどの刈り取りを行いました。

エゾシカと森づくり 運動地でもシカの捕獲が 始まりました。



大雪の影響で、例年より多くシカの樹皮剥ぎが確認されました。森づくりでは、木がシカに食べられないように樹皮保護ネットを巻いてきましたが、とても追いつかない状況です。

今後は、シカや植物の有識者で構成される「知床世界自然遺産地域エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ」の中で、今回の結果をもとに、捕獲手法の検証が行われ、本格的な

「囲いわな」「くくりわな」「シャープシューティング(流し撃ち猟)」の3つの手法が用いられ、計452頭のシカが捕獲されました。

そして2012年1〜4月、実験的なシカの捕獲が環境省事業として行われました。今後の本格的な捕獲に向けた手法の検討として、「囲

いわな」「くくりわな」「シャープシューティング(流し撃ち猟)」の3つの手法が用いられ、計452頭のシカが捕獲されました。



1. 「囲いわな」
自動落下式ゲートを備えた囲い柵の中に、餌でシカをおびき寄せて捕獲する手法。
2. 「くくりわな」
ワイヤーを用いた仕掛けを地面に設置し、仕掛けを踏んだシカの脚を固定して捕獲する手法。
3. 「シャープシューティング(流し撃ち猟)」
警戒心を高めるシカが発生しないよう、一度に群れの全頭を捕獲する手法。具体的には、単独または小数の群れを狙撃し、捕獲を行う。



個体数調整に移行するかどうかの議論がされることとなります。運動地のシカ対策は、新たな展開を迎えています。運動地では、これまでもシカに関する中期方針を見直すなどの対応を行ってきましたが、今後も、この個体数調整事業の推移を注視していくとともに、状況に合わせてシカ対策、そして森づくりを進めていきます。

*個体数調整：
シカの数に適正な生息数とするため間引くこと

エゾシカの捕獲に関わるこれまでの経過

1970年代	明治以降、一時姿を消していたエゾシカが、再び知床に定着する。	2004年	知床世界自然遺産候補地科学委員会にエゾシカワーキンググループが設置され、知床半島の「エゾシカ保護管理計画」の検討を開始。
1977年	「しれとこ100平方メートル運動」スタート。開拓跡地の買い上げと植樹を開始。	2005年	運動地を含む71,000haが世界自然遺産に登録される。運動の森林再生専門委員会議(以下、専門委員会議)の中で、シカに関する中期方針の見直しの必要性について議論を開始。
1980年代	シカが好む樹木の樹皮食いが目立ち始める。1982年、知床半島中部以先が国指定鳥獣保護区に設定され、シカの捕獲が禁止となる。	2006年	知床半島の「エゾシカ保護管理計画」策定。「シカの個体数調整」も管理手法の1つに位置づけられる。
1990年代	個体数が爆発的に増加。シカが好む樹木の枯死やササ丈の低下、草原植生の変化が加速。	2007年	「エゾシカ保護管理計画」がスタート。知床岬地区でシカの個体数調整を開始(2007年以降も継続実施)。
1997年	「100平方メートル運動の森・トラスト」による森づくり作業開始。「人為的なエゾシカの個体数調整は行わない」という20年間の中期方針を掲げる。	2008年	専門委員会議の提案を受け、運動地のシカに関する中期方針を見直し。「植生への著しい影響が避けられない場合は、個体数調整も含めて検討する」とした。本誌10号にて運動参加者へ周知。
1998年	知床岬地区のシカ越冬数が過去最大の592頭となり、シカが好まないミズナラの大木にまで樹皮食いが発生。運動地では、防鹿柵や樹皮保護ネットによるシカ対策を中心に森づくりを進める。	2009年	羅臼町ルサ・相泊地区でシカの個体数調整を開始(以降も継続実施)。
2000年	運動地のシカ対策を議論する「シカ対策ワーキング会議」を立ち上げて検討を開始。	2010年	専門委員会議、運動推進本部・支部での議論を経て、運動地でのシカの個体数調整事業を「特別措置」として受け入れることを決定。
2002年	上記ワーキング会議の検討の結果、①シカに関する中期方針は5年毎に再確認を行うこと、②運動地のシカ管理は知床全体の管理計画の中で検討すべきこと、などを確認。	2011年	運動地を含む幌別・岩尾別地区でシカの個体数調整事業が開始。

2011年度の 事業決算

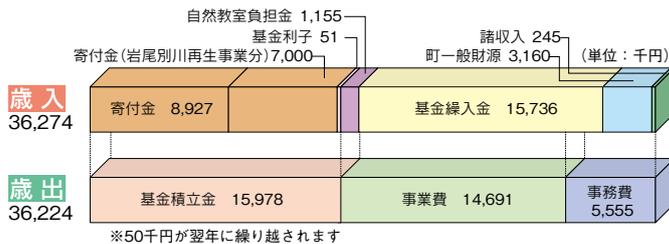
活動資金の決算を
ご報告します

封筒などの印刷製本、受付事務員の賃金などの費用に555万円を支出しました。
なお、2011年にいただいた寄付金は、いったん運動の基金に積み立て、2012年度以降の活動資金として活用していきます。

1000平方メートル運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しています。この基金と町の一般財源をもとに、森づくりや交流事業などを実施しています。なお、2010年度まで「保全管理」と「森林再生」に区分けた資金区分については、運動地の取得完了に伴い、2011年度会計より一本化して管理しています。

2011年度は、森づくり作業のための事業費として、総額1469万円を支出しました。その内訳は、森林再生業務委託費1098万円と、ダイキン工業株式会社からのご支援をいただき実施した岩尾別川再生事業委託費326万円が主なものです。また、事務費として「しれとこの森通信」や、通信発送用

2011年度決算の内訳



2012年度の 事業予算

活動資金の予算を
ご報告します

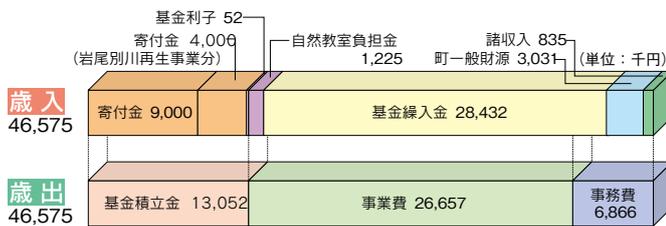
国立公園内森林保全基金の状況

(単位：千円) (2012年5月31日現在)

		2010年以前	2011年	計
歳入	寄付金	772,337	15,926	788,263
	利息	69,551	51	69,602
	計	841,888	15,977	857,865
歳出	事業費	637,812	13,536	651,348
	事務費	114,836	2,200	117,036
	計	752,648	15,736	768,384
残高		89,240	241	89,481

2012年度の総事業費は、約4657万円を予定しています。収入は、これまで積み立ててきた運動の基金から2843万円、町の一般財源から303万円を繰り入れるほか、寄付金の目標額として1300万円（ダイキン工業のご寄付400万円を含む）、その他に211万円を見込んでいます。

2012年度予算の内訳



支出は、2010年度に取得した運動地の防鹿柵設置費用に828万円、森づくりや交流事業などの現地業務の委託費に1170万円、岩尾別川の自然再生事業に581万円など2666万円を事業費から支出します。また、事務費として「しれとこの森通信」や運動パンフレットなどの印刷・発送費用に257万円、受付事務員の賃金174万円、運動35周年記念事業費として116万円など687万円を支出予定です。

2012年度の主な森づくり作業

岩尾別台地の第5区画(P.4参照)を中心に作業を行います。広葉樹の植樹や防鹿柵の補修などを進めます。その他には、2年目となる岩尾別川の復元事業や2010年度に取得した運動地内での防鹿柵設置作業を行います。



お知らせ

関東支部長が交代します

100平方メートル運動推進関東支部長の本内正敏さんが、神奈川県のお住まいを離れることになり、2011年度をもって支部長の職をご勇退されました。

本内さんは、関東支部の設立や1980年から始まった「知床自然教室」の立ち上げなど、長きにわたり運動推進のためにご尽力くださいました。誌面をかりて感謝申し上げます。後任の支部長には、かねてから関東支部の事務を担ってこられた税所功一さんが就任されました。



ご勇退される本内さん(写真右)と、新支部長の税所さん(写真左)。

今後も関東・関西の両支部との連携をより一層深めながら運動推進に努めてまいりますので、どうぞよろしく願っています。

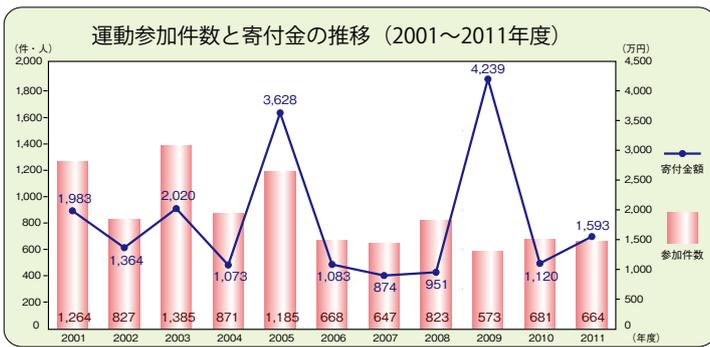
寄付(運動参加)のお礼

2011年度も
たくさんの寄付を
いただきました

2011年度は、東日本大震災の発生により情勢が不安定な中にもかかわらず、全国各地のたくさんの方から総額約1600万円(664件)の寄付が寄せられました。

ライオンズクラブ国際協会331複合地区ガバナー協議会様からは、年次大会を記念して100万円の寄付をいただきました。札幌ライオンズクラブ様からは、設立55周年を記念して100万円の寄付をいただきました。
ダイキン工業株式会社様からは、岩尾別川の復元事業(2、3

ページ参照)に関わる資金として700万円の寄付をいただいています。
また、毎年賞与の一部を寄付いただいている愛知県の友和製作所従業員一同様からも継続したご支援をいただきました。
知床の森づくりをご支援くださった多くの皆さまへ、ここにあらためてお礼申し上げます。ありがとうございます。



寄付(運動参加)のお願い

知床で夢を
育てませんか!

数百年後の豊かな森と生物相の復元に向けた取り組みは、運動参加者の皆さまからの寄付金によって支えられています。引き続き暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

●寄付(運動参加)の方法

寄付金は一口「5千円」です。

①郵便振替の場合

- ・ 申込書を郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。
- ・ 寄付金を郵便振替で斜里町役場にお送りください。

②現金書留の場合

- ・ 申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。

◎運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。

- ・ 所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。

- ・ 地方公共団体への寄付金に係る控除

が拡大され、住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。控除の対象となるのは、2千円を超えるご寄付です。



寄付をいただいた方に募金証書をお送りします。メッセージを添えて、ご家族・ご友人へのプレゼントにもおすすめです。

*このHPから申込書のダウンロードや、森通信のバックナンバーをご覧頂けます。

■お申込み・お問い合わせ先

〒099-4192
北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場 自然環境係
TEL: 0152-23-3131 FAX: 0152-23-4150

口座番号: 02740-8-10555
加入者名: 斜里町役場

「100平方メートル運動の森・トラスト」ホームページ
<http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>

森通信の発送が不要な方はお知らせください。

通信物の発送停止をご希望の方は、お手数ですが、斜里町役場までご連絡ください。なお、森通信は運動のホームページでもご覧いただけます。

2012年度の活動予定 知床の森づくりカレンダー

イベント&ボランティア

知床の森づくりの一年間。数百年先の未来の森を夢見て、日々さまざまな取り組みを行っています。

Ⓘ イベント Ⓚ ボランティア募集日



春の森づくり

Q 本格的な森づくりの始まりは5月の連休明けからです。雪解けを待って、苗木を育てている苗畑での作業を開始します。芽吹きまでの数週間、植樹や大きな苗の移植、秋の植樹用の苗木の準備など大忙しです。

5月

- Ⓚ 11日(金)～13日(日) *終了
- Ⓘ 25日(金)～29日(火)
「第6回 知床森づくりの日・春」*実施済
18～21日:
第2回ダイキン社員ボランティア*終了

6月

- Ⓚ 8日(金)～10日(日) *終了
- Ⓚ 15日(金)～17日(日) *終了
- Ⓚ 22日(金)～24日(日) *終了
- Ⓚ 29日(金)～7/1(日)
20～21日:都立南多摩中等教育学校研修旅行



夏の森づくり

Q 苗畑では雑草が一気に草丈を伸ばし、除草作業に追われます。このほか、新取得地でのシカ柵の設置や岩尾別川の復元事業、運動地内の川に帰ってくるサクラマス産卵状況を確認する調査なども行います。

8月

- Ⓘ 7月30日(月)～8月5日(日)
「第33回 知床自然教室」
- Ⓘ 24日(金)～28日(火)
「第7回 知床森づくりの日・夏」
- Ⓚ 31日(金)～9月2日(日)

9月

- Ⓚ 14日(金)～16日(日)
- Ⓘ 21日(金)～25日(火)
「第8回 知床森づくりの日・秋」
- Ⓚ 28日(金)～30日(日)
10～11日:第1回森林再生専門委員会議

10月

- Ⓚ 5日(金)～7日(日)
- Ⓚ 12日(金)～13日(土)
- Ⓘ 13日(土)「運動35周年記念講演会」
- Ⓘ 14日(日)「第16回しれとこ森の集い」
中旬:第3回ダイキン社員ボランティア

11月～12月

- Ⓘ 10月30日(火)～11月4日(日)
「第16回 森づくりワークキャンプ」
12月上旬:第2回森林再生専門委員会議



秋の森づくり

Q 秋も植樹や苗木の移植に適した季節です。冬を目の前にした最後の季節、ボランティアの皆さんとともに、苗木の植樹や岩尾別川河畔林でのシカ柵づくりなど秋の森づくりは、雪で道が閉ざされるまで続きます。

2013年1月

- Ⓚ 19日(土)～20日(日)
- Ⓚ 26日(土)～27日(日)
下旬:
「スノーシュー・歩くスキーコース」オープン

2月

- Ⓚ 2日(土)～3日(日)
- Ⓚ 9日(土)～10日(日)
- Ⓚ 16日(土)～17日(日)
- Ⓚ 23日(土)～24日(日)



冬の森づくり

Q 冬、運動地周辺は、エゾシカの越冬地となります。シカの冬のエサとなる木々を守るため、保護ネット巻きを行います。また、運動地を歩くスキーコースの開設や看板作製なども冬の仕事です。

2012 大募集 「知床のために」が合言葉!
イベント参加者募集!

知床の森づくりには、あなたの力が必要です。ぜひ、イベントやボランティアにご参加ください。皆さま、お待ちしております!

第33回 知床自然教室

- 日 程: 7月30日(月)～8月5日(日) 6泊7日
- 対 象: 小学校4年生～高校3年生
- 定 員: 40名(先着順)
- 参加費: 35,000円(別途、現地までの交通費)
- 申 込: 7月6日(金)まで



全国から集まる仲間とともに、知床の森で暮らす一週間!

知床森づくりの日

- 日 程: (夏) 8月24日(金)～28日(火) 4泊5日
(秋) 9月21日(金)～25日(火) 4泊5日
- 定 員: 12名(18歳以上)
- 参加費: 16,000円(宿泊・食費等込)
- 申 込: 各開催日の2週間前まで



知床の森で4泊5日の森づくりを体験しませんか!

第16回 しれとこ森の集い(植樹祭)

- 日 程: 10月14日(日)
- 参加費: 無料
- ※こちらの参加申込み等は斜里町役場まで
【斜里町役場自然環境係】
TEL: 0152-23-3131 FAX: 0152-23-4150



午前中は森歩き、午後は植樹祭。秋の知床を満喫する1日です!

第16回 森づくりワークキャンプ

- 日 程: 10月30日(火)～11月4日(日) 5泊6日
- 対 象: 18歳以上
- 定 員: 15名(先着順)
- 参加費: 18,000円(宿泊・食費等込)
- 申 込: 10月14日(日)まで



森の番人指導のもと本格的な森づくりに打ち込む6日間!

Q イベント・ボランティアの参加申込み・お問い合わせはこちらまで。

詳しくは知床財団 HP で!

「公益財団法人知床財団 自然復元事業係」 TEL: 0152-24-2114 MAIL: info@shiretoko.or.jp

知床財団 ▶ で検索!